

2026年7月29日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

東証プライム市場・名証プレミア市場

## 奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト (2027年3月期第1四半期 連結決算)

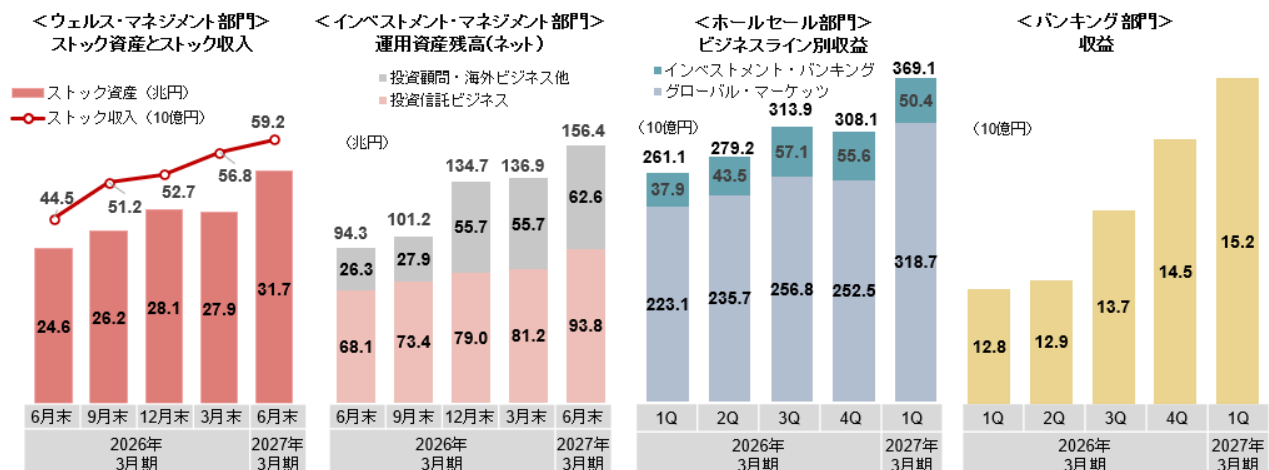
野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)は本日、2027年3月期第1四半期(2026年4-6月、以下「当四半期」)連結決算を発表しました。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「2030年に向けた新たな定量目標『ROE10～12%+、税前利益7,500億円超』に対し、当四半期のROEは15.4%、主要4部門の税前利益は2,130億円となり、非常に良好なスタートとなりました。

ウェルス・マネジメント部門では、資産管理ビジネスの定着により、ストック収入、ストック資産、ストック資産純増がいずれも過去最高を更新しました。投資信託や投資一任契約を中心に資産買付も高水準で推移し、ストック収入費用カバー率は76%まで上昇しました。インベストメント・マネジメント部門では、運用資産残高が過去最高となる156兆円に達しました。国内外で運用報酬が増加したことに加え、ノムラ・アセットマネジメント・インターナショナルが運営する新規設定の新興国株式アクティブ型投信への資金流入等により、収益・税前利益は過去最高を更新しました。ホールセール部門では、安定・成長・多様化に向けた取組みが実を結び、収益拡大に伴うオペレーティング・レバレッジの発揮により経費率も改善し、収益・税前利益は過去最高を更新しました。グローバル・マーケットはエクイティが牽引して過去最高収益、インベストメント・バンキングも第1四半期として初めて500億円超の収益を達成しました。バンキング部門では、ローン残高や投信受託残高の拡大を背景に増収増益となりました。預金スイープサービスの開始によりウェルス・マネジメント部門との連携も進み、契約件数や預金残高が順調に拡大しました。

こうした成果は、ビジネスモデル変革、国内外の基盤強化、グループ横断の連携強化によるものです。今後も、2030年に向けた経営ビジョン『Reaching for Sustainable Growth』の実現に向けて、各部門の収益拡大、部門間シナジーの深化、全社的な構造改革、規律ある資本配分を進めてまいります」



## 決算ハイライト

### 全社

- 税前利益は2,115億円(前四半期比96%増)、当期純利益は1,456億円(同97%増)、EPSは48.34円でした。すべての部門が前四半期比で増収増益、ROEは15.4%と、構造改革の成果が着実に業績に表れ、2030年に向けた経営ビジョン『Reaching for Sustainable Growth』の実現に向けて順調に進捗しました。

|                   | 当四半期    | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|---------|-------|-------|
| 収益合計<br>(金融費用控除後) | 6,867億円 | +19%  | +31%  |
| 税前利益(損失)          | 2,115億円 | +96%  | +32%  |
| 当期純利益(損失)         | 1,456億円 | +97%  | +39%  |

### 主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、資産管理ビジネスの定着によりストック収入、ストック資産、ストック資産純増がいずれも過去最高を更新しました。ストック収入費用カバー率は76%まで向上し、税前利益率は49%と高水準となりました。
- インベストメント・マネジメント部門は、収益、税前利益が部門設立以来過去最高を更新しました。運用資産残高は、過去最高となる156兆円に達し、買収事業も含め国内外で運用報酬が増加しました。アメリカン・センチュリー・インベストメンツ関連損益の拡大も、増収に寄与しました。
- ホールセール部門は、安定・成長・多様化に向けた取組みが実を結び、部門設立以来、収益、税前利益は過去最高を更新しました。グローバル・マーケットは注力するエクイティや海外富裕層ビジネスが大幅増収となり、業績を牽引しました。インベストメント・バンキングは第1四半期としては初めての500億円超の収益を達成しました。
- バンキング部門は、貸出業務や信託・エージェント業務からの収入が堅調に推移しました。預金スイープサービスの開始に伴い、契約件数や預金残高が順調に拡大しました。

|                   | 収益合計(金融費用控除後) |       |       | 税前利益(損失) |       |       |
|-------------------|---------------|-------|-------|----------|-------|-------|
|                   | 当四半期          | 前四半期比 | 前年同期比 | 当四半期     | 前四半期比 | 前年同期比 |
| ウェルス・マネジメント部門     | 1,454億円       | +9%   | +37%  | 711億円    | +16%  | +83%  |
| インベストメント・マネジメント部門 | 983億円         | +14%  | +94%  | 450億円    | +148% | +109% |
| ホールセール部門          | 3,691億円       | +20%  | +41%  | 933億円    | +116% | +123% |
| バンキング部門           | 152億円         | +5%   | +19%  | 36億円     | +19%  | +1%   |
| 合計                | 6,281億円       | +16%  | +46%  | 2,130億円  | +70%  | +101% |

### 【ご参考】

[決算関連情報\(決算短信・説明資料\)](#)

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2026年7月29日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2027年3月期第1四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

<お問い合わせ先>グループ広報部 大津、山下、江本、増岡、竹内、山本、森本、長谷部 TEL:03-3278-0591